



お堂筋のかたまり

位置に「ごて地蔵」と書かれた看板があり、足元に説明板があった。災の地蔵尊として付近の住民はもとより当地を来訪される多数の人々の篤い信仰を受けている。昭和51年8月 曾根崎二丁目北町内有志一同「読み終えたところ、一人の女性が立ち止まっていた。思わず声を掛けた。『町内会の方ですか』という声で「いいえ違います。近くにお店をされている者ですが、時々お参りに来います。何しろ店の氏神様が、お初天神の露天神社ですからね」

「招福除災」人々の篤い信仰
 「この地蔵尊の由来は、昭和のはじめ、この梅田界隈に悪疫が流行したり、不測の災厄が頻発した際に、不動寺の住職の『この地に埋没放置されている地蔵尊がある。奉祀せよ』との託宣により、町内の有志が発掘して奉祀したところ、靈験がたちどころに現れ、悪疫、災厄は霧散したのであります。爾来、誰が名付けたのか『ごて地蔵』とも尊称されて、招福除災の竹本座で「曾根崎心中」を見た帰り、お初天神に立ち寄る人々もこんな仕草をして参詣したのかも知れない。手を自然に合わせることができる人は幸せだなと思った。私は今まで何気なく合掌することはあったが、その意味を深く考えた

路地裏を通ると思わぬ発見をする時がある。今日はお地蔵さんの発見。お初天神通りに入る近道をしたら、南からの日差しが陰になって、立派な屋根を頂いたお地蔵さんに出合った。目より高い

メモ

地蔵尊 日本に8世紀ごろ伝来、平安時代後期の貴族層に広まった。地獄の苦しみから救済してくれるとされ、鎌倉時代になると阿弥陀浄土信仰と融合して、民衆に広まった。道祖神とも結び付き、村の辻々に建てられたほか、子どもを救済するという信仰が起り、「子安地蔵」として浸透した。江戸時代に最も盛んになり、延命地蔵、六地藏、千手地蔵なども祭られた。



ビルの隅にたたずむ「ごて地蔵」